

副理事長に就任して

土木地質株式会社 代表取締役

橋本 岳社



・挨拶

この度、(一社)東北地質調査業協会の副理事長に就任致しました、土木地質株式会社の橋本岳社です。従来の広報委員長も兼任しておりますので、協会員の皆様方には改めて宜しくお願い致します。

微力ながら奥山理事長を支え、東北地質調査業協会が更なる発展を迎えられるようにお手伝いさせていただきます。

・60年の節目

我々地質協会は、今年度設立60周年の節目を迎えることが出来ました。一言で60年と言っても人間ならば還暦です。先達の皆様が築いた信頼と実績が積み重なった結果であり、この節目の年に私が思うのは、この60年というタスキを10年後20年後にも恙無く繋げる事が出来るように、若者が就業したくなる地質業界の活性化です。

60年前、我々の先達者達は戦後からの脱却を最優先とし、住みよい国土を目指して上下水道や道路整備等のインフラ整備に汗水を流し、業界の礎を築いて下さいました。

現在は地方都市含めて都市整備が一段落しましたが、近年老朽化対策などが目立ってきております。しかしながら、建

設業界全体の担い手不足が重なり、最近とみに増えてきた災害対応でも、人手があれば、若者がいればと思うことも多々見受けられます。まずは、若者が就業したくなる魅力溢れる地質協会を目指して行きます。

一時は100社を超えていた会員各社ですが、現在は半数近くまで落ち込みました。若者を呼び込むためにも、もっと一般社会にも知ってもらえるように国土交通省などの官庁と協力して、広報活動にも積極的に力を入れ、魅力溢れる地質協会を目指して行きます。

・私の果たす役割

現在の状況についてですが、昨年、国土交通省の方々と意見交換会を行った際に言われた言葉が、未だに耳に残っております。「今の若者は、残業時間が無く、週休二日制で給与が高いのが当たり前。それを最低限クリアしないと学生は見向きもしない」と、国土交通省は「新3K(給与が良い、休暇が取れる、希望が持てる)活動」を提唱しております。現在は厳しい状況だとしても、協会各社が目指し到達すべき場所の一つではあります。

現場も週休二日制にするためには、週末に稼働しなくても良い給与(収入)が

無くはなりません。業界全体での動きが加速するように、官公庁の意見交換会を含めて地質協会の思いを代弁させていただきます。

・私的なこと

さて、私の来歴を紹介させていただきますが、広報委員に任命された際に（大地56号）書かせて頂きましたので、今回は私の趣味などを書いていきたいと思えます。

数年前に子供が生まれてから、カメラが趣味となりました。元々はスマホのカメラで十分だと思っていたのですが、友人たちから「子供はあっという間に大きくなるぞ!」、「小さくて可愛いのは、アッという間に過ぎるぞ」等と言われ、挙げ句に「子供が大きくなってから、幼い頃を鮮明な写真を撮っておきたかったと後悔するぞ」等々説得?されて、カメラ購入に踏み切りました。

その際に妻に「ちゃんと趣味として使い続けるので、カメラ買って良いですか?」と許可申請をしましたので、それ以来「趣味」と言い続けております。腕前については、初心者に毛が生えた程度と言っておきます...伸びしろは十分あるのですよ!

・最後に

昭和から平成に変わった時、私は中学生で「これから世の中はどうなるのだろう?」と、受け身の姿勢でしたが、時代が平成から令和に変わった時、「私たちの世代が頑張らなければ」との思いが立ちました。

改めて、東北地質調査業協会を発展させ次世代に繋げるためにも、若者の就労を促す魅力溢れる業界を、皆さんと一緒に考えていきたいと思えますので、どうぞ今後とも皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。